

# ワクチン接種効果 デルタ株8分の1

9/8 2, 5 種

国際グループ発表

インドで最初に確認され、現在、世界の多くの国々で感染の主流となっている新型コロナウイルスのデルタ変異株はほかの株より感染力が強く、ワクチンなどによってつくられた中和抗体に対する感受性が低いことが実験で確かめられたと、ケンブリッジ大学などの国際研究グループが科学誌『ネイチャー』

(6日付)に発表しました。

研究グループは、気道の細胞からつくったミニ臓器を使ってデルタ変異株とほかの株の感染のしやすさを比較しました。その結果、デルタ変異株はほかの株よりも細胞に侵入しやすく、侵入してからの複製も効率的に行うことがわかりました。また、以前新型コロナウイルス

に感染した人と、ファイザー社製あるいはアストラゼネカ社製のワクチンを2回接種した人の血清を使って、デルタ変異株とほかの株に対する中和抗体の効果を比較しました。その結果、ワクチンを2回接種した人の中和抗体のデルタ変異株に対する効果は、ワクチンをつくるのに使われた比較的初

期の変異株に対する効果の8分の1であることがわかりました。

新型コロナウイルスに感染した人の血清に含まれる抗体も同じく6分の1であることがわかりました。

研究グループは、これらの結果はデルタ変異株がほかの変異株よりも感染を広げている理由を説明するのに役立つとしています。